

東陽中だより

教育目標 ～明日を拓く～

・豊かな心・活きた知性・たくましい体

発行責任者 小野寺 憲治

文 責 佐々木 正道

発行日 平成28年4月28日

学校教育目標『明日を拓く』を生かした学校づくり

校長 小野寺 憲治

111名の新入生を迎え、全校生徒375名で平成28年度がスタートしました。また、4月1日付で3名の教職員が転入し、新体制が整いました。

今年度、学校経営の重点目標は「生徒一人一人が自らの育ちを実感できる教育活動の充実」と設定しました。学校教育の意義は、集団の中で互いに学び合い、高め合い、励まし合い、支え合いながら自己実現を図っていくところにあります。そのためには、一人一人がよりよい学校を創っていこうとする意欲や努力が必要です。その中で所属感や自己有用感を高め、自分の目標に向かって生き生きと活動する生徒であってほしいと願っています。そのために、私たち教職員は「チーム東陽」として総力を結集し、子どもたちが健やかな成長を遂げられるよう邁進して参ります。

4月7日、平成28年度の始業式を行いました。進級した2、3年生による式でしたが、昨年の着任以来、儀式的行事や全校集会における礼儀や態度が素晴らしい中、粛々と行われました。年度の始まりにあたり次のことを話しました。

『今日から平成28年度が始まります。2、3年生の皆さん進級おめでとうございます。3年生は、最上級生として、本校を代表する顔ともいえるべき存在になります。いろいろな場面で後輩達の良き手本となり学校の顔として、新たな東陽中学校の伝統作りに取り組むことを期待します。2年生は、中だるみの学年などと言われることもありますが、昨年度の皆さんの活躍を見ているとそんな心配はありません。中堅学年として、午後から入学してくる1年生の良き手本として、積極的に学校生活を送る取り組みを期待します。それでは、新しい年度の始まりに当たって、2つのことを話したいと思います。』

一つ目は、夢や目標をもち、実現に向け日々努力しようということです。夢や目標がなければ、努力のしようがありません。夢を持ち、実現に向けて努力すること、絶対に成し遂げようとする不屈の精神力こそが自身を大きく成長させます。そこで、皆さんも夢を持ち、夢を語り、努力し続ける人であることを期待します。

二つ目は、「仲間との助け合いや協力関係」を築こうということです。千年に一度と言われる東日本大震災から丸5年、終生忘れることのできない悲しい出来事でした。被災地の復興は未だ道半ばの状況です。道路の修復や被災アパートなど多数の建築が進んでいますがまだまだ完全ではありません。ですが着実に活気を取り戻しつつあるようです。そこでは、互いに助け合い、協力し合いながら活躍する多くの方々がいます。こういう姿は、皆さんの学校生活にも生かすことができます。学級会や生徒会活動、学校行事、部活動等を通して、仲間との助け合いや協力を強い確かなものにすることです。個人ができることには限界があります。個々の持つ力を結集することにより集団として素晴らしいものを創り上げることができるのです。震災の苦しみから這い上がろうとしている被災者のパワーに負けないよう、皆さん一人一人が成長することを期待します。新年度のはじめにあたり、自分なりの夢や目標をもち実現に向け努力することと、学級活動・学校行事・部活動など仲間との助け合いや協力を通して、1年後、皆さん一人一人が大きく成長することを期待しています。』

祝 38 歳 5 月 1 日 旭川市立東陽中学校開校記念日

38年前の昭和53年、当時あった東光中学校と光陽中学校の過密化を防ぐために開校したのが東陽中学校です。

「太陽は東から昇り、地球上のあらゆるものはこの恩恵を受けている。さわやかな太陽が昇り、光を四方に広げるがごとく、生徒の成長と力強い活躍、発展への願いを校名に託した。」と、記録に残っています。

また、校章は太陽の円形を土台に旭川の樹木「ナナカマド」の葉と3本のペン先があしらわれ、郷土と学問への思いが込められています。